

原子力災害避難訓練報告

毎年島根県が企画実施する原子力防災避難訓練にこの度、持田寮が指名を受け令和元年11月9日(土)に実施しました。主な訓練内容は

- ①入所者屋内退避避難訓練
- ②陽圧装置稼働訓練
- ③備蓄資機材移動訓練
- ④情報伝達訓練 ……の4点です。

訓練当日利用者の皆様を屋内退避場所となる食堂へ避難誘導、安心して過ごして頂くように、テレビ、カラオケを楽しんで頂きました。陽圧装置を実際に稼働してチェックを行い、備蓄資材を食堂へ運び、何日分の備蓄食があるか確認、法人職員、ご家族様に情報伝達を行いました。今回の原子力災害避難訓練に参加し、避難訓練の重要性、いざという時落ち着いて動けるか、等改めて訓練対応手順の認識が必要と感じました。



苦情や要望の受付・解決への取り組み報告

(令和1年5月～11月)
標記期間中に苦情の申し立てはありませんでした。今後も真摯に対応していきたいと考えますので、お気軽にお申し付け下さい。
なお、法人内、各事業所の苦情受付窓口以外に右記にご相談頂くこともできます。

■千鳥福祉会苦情解決第三者委員
京 俊輔 氏 (島根大学人間科学部 准教授)
TEL0852-32-6239
足立 孝子 氏 (島根大学人間科学部 助教)
TEL0852-32-9051
島根県施設運営適正化委員会
TEL0852-32-5913

施設・設備等貸し出しのご案内

千鳥福祉会では、地域貢献活動の一環として、近隣地域のみなさまに法人が所有する施設・設備・備品等の貸し出しを行なっています。ご利用の希望がある場合はお気軽にお尋ね下さい。

●施設・設備・備品等の一例

- ・体育館 (バドミントン用ネット・ポール、バレーボール用ネット・ポール)
 - ・会議室 (プロジェクター、スクリーン)
 - ・テント
- ※使用料に関しては、基本、無償貸与としております。



利用者みなさんの「声」受け付け報告

(平成31年4月～令和2年11月)

当法人では、利用者みなさんから上がるいろいろな相談、その「声」に耳を傾け、利用者みなさんの立場に立った支援をしていきたいと考えています。全体的な傾向として、自立度が高い方が利用される事業所の方が多くの意見を頂いています。さらには、利用者自治会の機会等に一度に多数の意見が寄せられるようです。各事業所により、利用対象者やサービス提供形態が異なるため、一律の取り組みとはなりにくいですが、各事業所がそれぞれに工夫して「声」に耳を傾け、相談に応じていきたいと思っております。
※ひまわり・総務の場合は、他事業所向けの相談受付となります。

	利用者みなさまより	ご家族みなさまより (世話人含む)
持田寮	75	1
ういんぐ	142	
フレンド	149	
ばすてる	28	45
共同生活	81	5
大空	6	
ひまわり・総務	1	1

Leaving
Care News
2020.01.01 No.136



〒690-0814 松江市東持田町1415
社会福祉法人 千鳥福祉会
TEL0852-24-8820(代)FAX0852-24-8825
障がい者支援施設 持田寮
多機能型事業所 L.C.C.ういんぐ
多機能型事業所 ワーカーセンターフレンド
共同生活援助事業所
居宅介護等事業所千鳥福祉会ケアセンター大空
相談支援事業所 ひまわり
放課後等デイサービスばすてる・ばすてるびいす
URL <http://www.tidori.org/>
E-mail chidorifukushikai@luck.ocn.ne.jp



『共創』から『共生』へ。

社会福祉法人千鳥福祉会 理事長 山本 昌子

新年あけましておめでとうございます。
平成から令和へと年号が変わり2年目を迎えますが、皆様にとりましてもきっと良い年でありますようお願いいたします。

平成3年から事業開始した千鳥福祉会は29年目を迎え、ほぼ平成の時代を生きてまいりました。平成の世でありながらも、私も含め戦後の貧しさの中で生きてきた年代には「ゆりかごから墓場まで」という経済学者ケインズの言葉が心のどこかに残っているのではないのでしょうか。当時の夢のようなイギリスの社会保障政策の今は…まだ脈々と生きています。そして福祉! と謳いながらの経緯はあるものの、新たな課題は次々生まれます。これまで世界秩序と絡んできた民主主義、社会主義、共産主義等の価値観も右往左往のように見え、世界的な不安感もあります。そんな中で日本は不動なのか…我々の暮らしにまで影響は及ば

ないのか…少子・高齢化がどんどん進む中でこれまでのような豊かな経済や暮らしを維持できるのか…何らかの手を打たねばとも思うのは皆さんも一緒だと思います。よく聞く言葉に『思えば叶う』『言葉に出す事が大切』等もありますし、必ず策はあると思います。
実は先日、それも小さな出会いからホッとするメッセージを頂きました。「島根には輝く星が山のようにあります。私たちの仕事はあなたと地域を輝かせるための『共創』の仕組み作りです」
一人や一団体では決して叶わない夢! 優しい福祉社会も『共創』の仕組みづくりで可能になる! 『共生』のためには『共創』を。これまで大切に取組んできたことはこの言葉で象徴できると実感しました。微力ではありますが、地域の皆様と『共創』に向けてこれまで以上に努め、『共生』を実現してまいりたいと思っております。
本年も変わりませすよろしくお願いたします。

編集/情報発信委員会

- ・津田 真治
- ・深石 恵美
- ・竹内 朋宏
- ・後藤みなみ
- ・江指 裕嗣
- ・増田 佳那
- ・植尾 佳代



千鳥福祉会ホームページ
URL <http://www.tidori.org/>
E-mail chidorifukushikai@luck.ocn.ne.jp



「Facebook」
法人のFacebookページを情報発信委員会で運営しております。
<<https://www.facebook.com/chidorifukushikai1415/>>
事業所での日々の様子を、SNSでより身近にお伝えできるよう頑張りますので、よろしくお願いたします!(フォローやリアクション頂けると大変喜びます!)



「マチコミ」にご登録の皆様へ
職員・保護者の連絡網として導入したメール配信サービス「マチコミ」について、アプリ版のご案内です。スマートフォンからご利用の場合は、アプリ登録でタイムラインの閲覧などより便利にお使い頂けます。
アプリのダウンロードはこちらから。
<※もしくは各ストアから「マチコミ」で検索。>
詳細は各事業所の情報発信委員までお気軽にお問い合わせください。

令和最初の秋の旅

ういんぐは広島へ日帰りや、一泊での九州旅行。フレンドは数年ぶりの一泊旅行。持田寮では保護者様もご一緒に出雲への旅…。今年度も各事業所、趣向を凝らした旅行となりました。



★ちょっと似てる…?(フレンド) ★来たぜ九州!(ういんぐ)



★出雲そばおいしかったよ(持田寮)



★願いが叶いますように(持田寮)



★のんびり電車旅(持田寮)



★鷲羽山ハイランドにて(フレンド)



★山口・海の幸に舌鼓(ういんぐ)



★キリンビール工場!(フレンド)



★広島〜動く絵の世界!(ういんぐ)

レッツ・パーティー!

令和初のクリスマス会。持田寮、ういんぐはホテル一畑にて、グループホームの夕食はレインボープラザにて開催。フレンドは毎年恒例となった利用者様発の余興、ぱすてるびいすは持田寮とコラボのほか、国際交流員を迎え持田公民館で親子クッキング。事業所ごとの個性あふれる企画となりました。



★松江市国際交流員 イザベルさん



★「青葉台踊りの会」の方々とダンス(共同生活)



★クリスマスプレゼント☆(フレンド)



★みんなでハイ!チーズ(ういんぐ)



★皆でダンス♪(フレンド)



★クリスマスリース良いのが出来ました(持田寮)



★テーブルごとに集合写真(共同生活)



★T…じゃなくてUU兄弟!(ういんぐ)



★持田寮クリスマス会での発表(ぱすてるびいす)

フレンド×共同生活

「働くこと」と「暮らすこと」。いずれも、私たちが望む幸せな日々のためには、欠くことのできない活動です。今回は就職という形で、地域社会の中に活躍の場を掘られた方々の、働く場と暮らしの場での綿々たる日々と、その支援の一端をご紹介したいと思います。



★Kさん(2018年秋の旅にて)



★第1回就労者の集い

ワークセンターフレンドでは、障がいのある方の一般就労の夢を支援しています。毎年一般企業へ就職する方がおられ、今年度は2名の方が就職されています。入社時は皆さん、希望だけでなく不安もあられると言われます。就職してしばらくはフレンドの職員が定期的に通勤先に行き、ご本人や就職先の同僚の方と話をし、ご本人が働きやすく、職場の方も不安が少なくなるよう支援をしています。

今年度就職されたKさんは、病院内の厨房で働かれています。最初は力が弱くて寸胴を持てなかったり、分からない事を同僚の方になかなか聞けず、お仕事が進まなかったりと苦労されました。毎週職員が話を聞きに行き、Kさんに出来る仕事や分かりやすい教え方等を同僚の方にお伝えしました。今ではすっかり慣れ、「職場の方もとても優しく、仕事も楽しいです。就職してとても良かったと思います。」と、自信を持って働かれています。今後もお仕事が長く続けられるよう、支援を続けていきます。

(ワークセンターフレンド主任/中林 美香)

近年、障がい者の雇用促進法改正により雇用法定率が拡大されました。そのため企業の雇用枠が広がり、当法人グループホームの利用者様も、今では全体の2割の方がそれぞれ企業の一員として仕事に励んでおられます。昨年就職された方は、新たな社会生活の広がりにより今まで経験のなかった新鮮な出会いや発見で行動範囲も広がり、生き生きとした毎日を過ごされています。

しかし、中には継続していくうちに、体力や体調など年齢的な問題や悩みも出現、一人でその場を克服していかなければならない現実と向き合っている方もいます。日々のマンネリズムの中で気持ちが折れてしまうこともあります。

そこで当事業所では、年に1回、そのつらさや楽しさを共有する仲間としてのつながりを深めていただくために「就労者の集い」と称した慰労会を設けることにしました。第1回目では、久しぶりの顔合わせで利用者様が、飲食を共にしながらそれぞれ自分の仕事を紹介するなど和気あいあいのムードの中で楽しめました。

就職はゴールではありません。そこから継続への果てしないサポートが必要となります。私たちホームの支援員は日々、励まし、寄り添い、また少しでも就労の苦労を分かち合い、癒されるひと時が提供できるようこれからも努めてまいります。(共同生活援助事業所 管理者/遠藤 三津江)



★親子クッキング(ぱすてるびいす)



働く場、暮らしの場。